

# “治水の偉人”の銅像が完成

## 周藤彌兵衛顕彰会が除幕式

松江

た同町を流れる意宇川

を直線化しようと、1706年、川の流れを大きく迂回させていた剣(つるぎ)山で、切り通し工事を開始。以後40年以上にわたり、非常に固い石英安山岩の岩山に樋(つち)をふるい、鑿(のみ)を打ち、1747年に「日吉直通し」を完成させている。

今年4月に公布、7月に施行された水循環基本法において法定化された「水の日」に合わせ行われた除幕式には、矢野会長、小松社長のほか、関係者や地域住民約120人が参加。矢野会長は「周藤彌兵衛翁がいなかったらこの地域はなかった。銅像の設置は、会にとつて長年の願いだった」と話し、小松社長に謝辞を述べた。小松社長は顕彰会について「これほど献身的な団体はないと思っている」とその活動を称え、「これから世界平和の流れを生み出すのが我々の使命。出征兵を見送ったこの地から、自然の営みと新しい科学と技術を組み合わせた新しい潮流を世界へと発信していきたい」と銅像設置への思いを語った。

打ち、1747年に「日

松江市乃木福富町の小松電機産業株式会社(小松昭夫社長)が、同市八雲町で切り通しを開削した治水の偉人、周藤彌兵衛の銅像を作り、周藤彌兵衛顕彰会(矢野秀行会長、38人)に寄贈した。銅像は同町の日吉親水公園内の民有地に設置され、1日に除幕式が行われた。

### 小松電機産業が寄贈

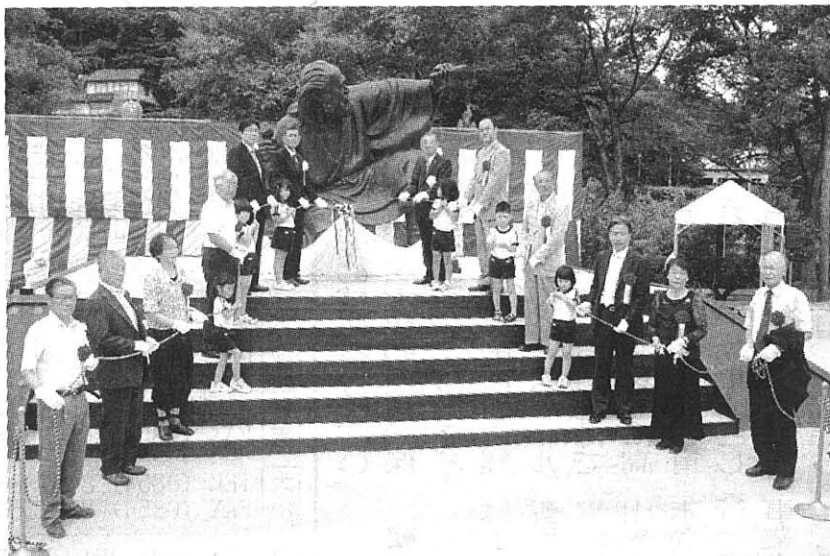
同社は総合水管理システム「水神」を主力製品としており、小松社長が理事長を務める財団法人人間自然科学研究所を通じて、出雲地方の治水の偉人である周藤彌兵衛、大梶七兵衛、清原大兵衛の「出雲三兵衛」の顕彰を支

援、推進している。同町は小松社長の出身地でもある。

設置された銅像は、高さ2・65m、幅2・8m、奥行1・7mで、重さは1・3ト。山陰で組織された歩兵第63連隊を含む北支那方面軍と中国軍が激突した

台見荘の戦い(1938年)の舞台となった中国山東省棗庄市で、約5カ月かけて制作した。デザインは飯南町出身の童話挿絵画家、故高田勲さんによるもの。

銅像のモデルとなった周藤彌兵衛の3代目、良利(1651-1752)は、当時はらんを繰り返してい



除幕された周藤彌兵衛の銅像。1日、松江市八雲町の日吉親水公園

来賓や地元のみよし保育園の園児らによつて銅像から幕が外されると、その迫力ある姿に大きな拍手が送られた。鳥取県選出の浜田和幸参院議員は、来賓あいさつで「島根や鳥取といった地域の垣根を越えて、広い視野で物事を考える時代。中国で作られたこの銅像の設置を機に、自然と共に生きる」と、日本から世界に発信するメッセージとした」と述べた。